

2025(令和7)年8月8日(金)～10日(日)

サマーフォーラムinきょうと

2025年9月発行

第13号

速報



第58回全国手話通訳問題研究集会

～平和と人権はいのち 仲間と共に京都から～

KYOTO TERRSA 京都テルサ

〒601-8047

京都府京都市南区東九条下殿田町70



<事務局>「第58回全通研～サマーフォーラムinきょうと～」実行委員会
〒610-0121 城陽市寺田林ノ口11番64
京都府聴覚言語障害センター気付
E-mail summerkyoto2025@kyoto-chogen.or.jp

各分科会の概要・様子

第1分科会「仲間づくりと学習」レポート7本

「手話活動と子育ての両立」に関わるオンラインを活用した取り組み(新潟)や、「手話カフェ」(栃木)についてなどのレポートを基に討論。手話カフェについては、集まって来る人たちの話したい気持ちを尊重しながら、ろうあ協会や全通研会員へ勧誘するなど仲間づくりに結びつけられると良い、と手話カフェを歓迎する声がきかれました。また、「デジタル時代の情報発信」についてのレポート(福井)では、「会員に合わせた会員のための会員による情報発信の時代！」として、SNSや会報、ホームページを使って会員の共感を呼ぶ情報発信を大切にしている取り組みをしていることを発表。

会員一人ひとりの得意分野や、やりたいことを活かして発信作業を分担している紹介がありました。

第1分科会の様子



第2分科会の様子



第2分科会「手話通訳者の仕事」レポート5本

市手話通訳制度50年の業務の振り返り(札幌)、手話通訳用ユニフォームについての取り組み(熊本)、手話通訳者の健康対策のあゆみ(静岡)などのレポートで討論を深めました。手話通訳の業務を振り返り、専門性を考えるために、グループワークが行われ、「(派遣時に)通訳者の技術レベルにばらつきがある。どのようにバランスをとればよいか?」「通訳レベルの向上の方法は?」「通訳者の研修の担い手が不足している」「人材確保、若手の育成、制度の基盤づくりが必要」「専任・設置通訳の業務や重要性を整理して行政に示す必要がある」などの意見が出されました。

第3分科会「手話通訳制度・しくみづくり」レポート5本

県内の現状を知る学習会(愛知)、若年層の手話通訳者養成モデル事業の取り組み(山口)などがレポート発表されました。討議では、「若い人を育成して就労してもらうために制度やしきみを抜本的に変える必要がある」「若い人に固定給としての給与保障がきちんとできるようにする必要がある」などの提起があった一方で、「通訳者を募集しても応募がない」「通訳者の高齢化が喫緊の問題」との意見も出ました。共同研究者の吉野幸代さん(連盟理事)からは「時代の流れで通訳者が減っているので、若手の手話通訳者の育成や底上げが必要。専門性を持った職業である手話通訳者をどのように養成し、事業を拡げていくのか、みんなで考えていこう」と話しがありました。



第3分科会の様子

第4分科会「地域でいきいきと暮らすために」レポート7本

介護・医療・防災・ひとりぼっちをなくす活動等と、まさに分科会テーマの“いきいきと暮らす”を考えるレポートの発表がありました。

島根の医療班からのレポートでは、聴覚障害者と一緒に医療に関する知識を深めるための研修会と、手話まつりでの医療相談を実施したことを報告。研修会では布製模型を制作したことも紹介がありました。今後はインターネットを使って県内だけではなく他支部の医療班との交流を広げて情報交換したり、聴覚障害者が求める“専門性を持った手話通訳者”の養成にも取り組んでいきたいと話されました。



第4分科会の様子

第5分科会「手話の拡がりを感じる社会に」レポート4本

「若者の手話学習者拡大と中学生以下の手話学習環境について」(宮崎)の報告では、令和5年度の手話奉仕員養成講座を中学生8人が受講したことをきっかけに、令和6年度からサークル活動として中学生向け手話講座を開催している西都市の取り組みに対して、「市の責任で開講すべきではないか？」との質問や、「昨年に続いてのレポートで、今年も元気をもらった」との感想がありました。また、「県教育委員会に手話普及員がいて、小・中・高に派遣したり、県が全学校に手話ハンドブックを配布している」(鳥取)という報告や、地域の状況の紹介もありました。小中学生の手話学習の継続性や、多様な子どもたちに合わせたテキスト作りなど、課題の共有も行われました。



第5分科会の様子

第6分科会「身近な課題を社会の課題に」レポート5本

京都の相楽地域のネットワークによる条例制定委員会の取り組みに関するレポートでは、他地域で条例制定が進む中、地域内の各市町村に要望を出したものの、進展がないので、ネットワークで取り組みを進めると、1市1町で検討委員会を立ち上げる動きがあり、今後は条例制定のために引き続き学習と運動を進めていくことや、条例制定後の取り組みについて、アドバイスがほしいとの報告がありました。これに対し、「オルグ活動を展開して、1つの市町村も取り残さず、全部で条例が制定できた」(福岡)、「きこえない人を中心にして制定をめざす取り組みは素晴らしい」などの意見が出ました。



第6分科会の様子